

教師ノート

週課	第三年 第二課 第三週
単元	ヨハネの福音書・2
テーマ	心からの献げもの
タイトル	ナルドの香油
テキスト	ヨハネ 12:1-8
参照箇所	マルコ 14:3-9、1サムエル16:7
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	マルコ 14:8
AG 日曜学校教案参照箇所	
<p>□導入 興味を起こす質問をしましょう。</p> <p>みんなの宝物って何ですか？(子供達に、どんなものを大切にしているのか聞いてみるとよい。また、教師自身が大切にしているものとその理由を話してあげるとよいでしょう。)</p> <p>大切なものをあげるとしたら、あなたなら誰にあげますか？ それは何故ですか？</p> <p>□ポイント1 イエス様は再びラザロたちの所に行きました。(12:1)</p> <p>イエス様は過ぎ越しの祭りの6日前に、よみがえらせたラザロ達の住むベタニヤに来られました。(過ぎ越し…出エジプト記12:1-14参照)イエス様が来られる事を知った町の人々は、イエス様をお迎えするパーティーを準備していました。あの、ラザロがよみがえったことを町の人たちは、みんな知っていましたので、イエス様は、ちょっとした有名人です。ラザロは、みんなと一緒にテーブルについていました。ラザロのお姉さんのマルタは、みんなの中でお手伝いをしていました。そして、もう一人、姉妹がいたはずです。マリヤですが、マリヤはどこに行ったのでしょうか?前にも、マリヤはお手伝いをしないでイエス様のお話を聞いていた事がありました。でも、イエス様の側にもいないようです。</p> <p>□ポイント2 マリヤの行動は人々を驚かせました。</p> <p>マリヤが何かをもって部屋に入ってきました。それはナルドという香油の壺でした。その香油は、とっても高価なものでした。その香油は約300gくらいありました。しかも純粋な香油です。最高級のものだったと思われる。</p> <p>(だいたい10ヶ月分の給料ぐらいの値段のする…新改訳の脚注参照。また、1デナリが一日分の給料ともありますので、300日分の価値があると考えられますので、150-300万円ぐらいの価値のあるものだったと考えられます。)</p> <p>(年齢が小さい子どもの場合はお金の価値がわからないので、お菓子やジュースがどのくらい買えるか、またはゲームがどれだけ買えるか等、子ども達が高価なものだとわかるようにしてあげましょう)</p> <p>もしかすると、お嫁に行くときのために用意していたものかもしれません。聖書には、何も書かれていません。でも、マリヤにとっては特別なものだったと思います。マリヤはイエス様に近づくと、足元にひざまづき、香油をイエス様の足にかけ、自分の髪の毛できれいに拭き取ったのでした。部屋中にその香油のいい匂いがしたのです。</p> <p>(ここはゆっくりと、情景を描きながら子ども達に話して下さい。教師自身が心を込めて、イエス様に香油を注いでいるように話しましょう)</p>	

マリヤは、イエス様のために何かしたいと思っていたのでしょうか。それで、一生懸命考えて、イエス様に自分のもっている最高のものを献げることにしたのです。このことを覚えておいて下さいね!!

□ポイント3 ユダはマリヤの行動に不満でした。

マリヤの行動に、そこに来ていた人みんながびっくりしました。そりゃそうです。普通ならあり得ない事だからです。みんな心の中でいろいろ思っていたでしょう。そんな時に、イエス様の弟子のユダが声をあげました。「何故、この香油を売って貧しい人たちにあげなかったのか!」と。ユダの言っている事は、間違っていますか? いいえ、ユダの言っている事は間違っている訳ではありません。確かに、これを売って貧しい人たちにあげる事も、心からそれをしようとするなら良いのです。問題は、ユダの心が間違っているのです。実は、ユダは会計係でした。でも、そのお金をこっそり使っていたのです。ドロボウをしていたのです。それを誰にも言わないでいました。だから、自分のしていることをごまかそうと思って、マリヤを責めたのです。ユダは、イエス様がみんなの心の中まで全部知っておられるということに、気がつかなかったのですね。(マリヤのイエス様への思いと、ユダの偽善的な思いとを対比して下さい。)

□結論 イエス様は、マリヤの心と献げものを喜ばれました。

暗唱聖句を読み上げます

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

マリヤとユダの違いはなんでしょう? それは、心が違うのです。

マリヤは、イエス様に自分の持っている一番いいものを献げたのですが、ユダは自分の悪い心をごまかすために、さも自分の発言が正しい事のように言っただけでした。

みなさんの中にもユダのような心はありませんか?

そういう心になることもありますね。

(ここでは、子ども達の中にもユダのような心になることがあることを認めてあげましょう。認めた上で、イエス様に喜ばれる心について考えましょう)

でも、イエス様は、心から献げる人を喜んで下さいます。高価なものでなくてもいいのです。どんなにたくさん献金しても、聖書を読んでも、教会の仕事をしていても、イエス様を愛する心で献げないなら、ユダと同じです。イエス様は私たちの心を見ておられます。cf. Iコリント 13章参照、Iサムエル 16:7

でも、わずかなものでも心を込めて献げるなら、それをイエス様は喜んでくださるのです。そして、あなた自身をイエス様に献げるなら、イエス様は喜んでたくさんの友だちがイエス様を信じるように用いて下さいます。

(もし、洗礼を受けていて什一献金をしていない子どもがいれば、すすめてみましょう。また、献身の決心を促してもいいでしょう。子ども達にとって大切なものをイエス様のために使うことの喜びを伝えましょう。)

もし、ユダのように自分をごまかすような心になった時には、イエス様に悔い改めの祈りをして、やりなおしましょう。心からイエス様を愛して献げる人になりましょう。